

次世代の情報セキュリティ政策に関する研究会（第4回）議事要旨

1 日時

平成20年1月31日（木） 10:00～12:00

2 場所

三田共用会議所 第4特別会議室

3 出席者

(1) 構成員（敬称略、五十音順）

有村 浩一（テレコム・アイザック・ジャパン）、綾塚 保夫（株NTT ドコモ）、飯塚 久夫（NEC ビッグロブ株）、小倉 博行（三菱電機株（管構成員代理））、加藤 朗（東京大学）、木村 孝（ニフティ株）、小屋 晋吾（トレンドマイクロ株）、小山 覚（株NTTPC コミュニケーションズ）、齋藤 衛（株インターネットイニシアティブ）、佐田 昌博（株ウィルコム）、篠田 陽一（北陸先端科学技術大学院大学）、下村 正洋（NPO 日本ネットワークセキュリティ協会）、高倉 弘喜（京都大学）、高橋 正和（マイクロソフト株）、手塚 悟（株日立製作所）、中尾 康二（KDDI株）、則房 雅也（日本電気株）、福智 道一（ソフトバンク BB株）、藤井 俊郎（松下電器産業株）、藤本 正代（富士ゼロックス株）、水越 一郎（東日本電信電話株）、安田 浩（東京電機大学）、山内 正（株シマンテック総合研究所）、横田 孝弘（KDDI株）、渡辺 芳明（日本アイ・ビー・エム株（徳田構成員代理））

(2) 事務局

松井官房審議官、竹内電気通信技術システム課長、柳島データ通信課企画官、河内情報セキュリティ対策室長、村上情報セキュリティ対策室課長補佐、田邊情報セキュリティ対策室対策係長

(3) その他

力武 健次（独立行政法人 情報通信研究機構）

4 議事

(1) 開会

(2) 議事

- (1) 今後の情報セキュリティに関する脅威及び課題等について
- (2) 情報通信環境の変化と情報セキュリティの脅威・課題について
- (3) 自由討議

(3) その他

(4) 閉会

5 議事概要

(1) 開会

事務局より、第3回会合の議事録につき説明が行われた。

(2) 議事

(1) 今後の情報セキュリティに関する脅威及び課題等について

ア. 5年後の情報セキュリティ（則房構成員）

資料4-2に基づき、説明が行われた。

イ. NGN とセキュリティ（水越構成員）

資料4-3に基づき、説明が行われた。

ウ. IPv6 化に伴うセキュリティ環境変化とその影響について（独立行政法人 情報通信研究機構）

資料4-4に基づき、説明が行われた。

(主な質疑)

- ・総務省の研究会等、様々な場で NGN 等における IPv6 でのインターネット接続について検討が行われているが、そこではマルチプレフィクスは回避する方向で議論が行われている。資料からは積極的にマルチプレフィクスを用いる方向性が示されているが、これはどのような意図からか。
⇒外に見せるアドレスと見せないアドレスの2つを端末に用意し、閉域網とその外とでアドレスを使い分けるという意味。必ずしも『マルチグローバルプレフィクス』を意味するものではない。
- ・IPv6 特有の問題点というのはそれほど多くはなく、多くの問題は IPv4 でも問題となっているもの。そこは注意する必要がある。また、CTU をネットワーク側で制御することをセキュリティの観点から分析する必要がある。もしかすると、一般利用者のリテラシー対応にも効果を発揮するのではないか。
⇒一般家庭にはセキュリティマネジメントができる人はいないと考えないと、NGN を家庭に入れるということは難しいと思う。CTU をネットワーク側でというのは、その通りだと思う。
- ・企業の立場からすると、ようやく端末の運用方法が定まってきたところ。1つの端末で複数のアドレスを持つマルチプレフィクスにどのようなアプローチをすれば良いか。新たな問題が発生するようにも思うが。
⇒VPN と同じ考え方になるのではないか。マルチプレフィクスは VPN からレイヤーが1つ下に落ちる。1つ下に落ちたときにどう制御していくかという問題になるのではないか。企業がマルチプレフィクスで運用すべきかどうかは、どのような運用方法があっても良いと思う。

- ・個人的には、本当に安全なものを作るのであれば、NGN を外のネットワークと接続しないほうが良いと考えている。同じ画面の上で安全なものそうでないものが混ざっているというのは非常に危険。ここを完全に解決しない限り、同じような問題が延々と続くのではないか。

⇒おっしゃる通りだが、外のネットワークに繋がっていない NGN を果たしてユーザが使うかどうかという点をそもそもの問題意識として持っている。

エ. モバイルセキュリティの動向と課題（横田構成員）

資料 4-5 に基づき、説明が行われた。

(2) 情報通信環境の変化と情報セキュリティの脅威・課題について

資料 4-6 に基づき、事務局より説明が行われた。

(3) 自由討議

（詳細は別記）

(3) その他

事務局より、今後のスケジュールにつき説明が行われた。

(4) 閉会

6 自由討議概要

自由討議における主な議論は以下のとおり。

- ・ボットによる DDoS 攻撃等の背景には、技術者が犯罪組織等に加担しているという現状がある。技術者がノーマルな仕事にやりがいを見出せるようにすることが重要。ネットワークインフラの健全な維持に苦勞している者たちが報われるような、技術以外の領域における情報セキュリティ政策を、競争政策等とも関連付け、検討していく必要がある。
- ・これまでの研究会におけるプレゼンテーション等によって、かなり多くの情報が集まった。今後は、具体的な施策や対策を念頭に置いた上で、重点的に検討すべき事項を抽出していく必要がある。
- ・国・組織単位による悪意を持った攻撃というものが発生しつつある。その観点から、悪意を持った者に対して、国全体・組織全体としてどのように対処するかということも考えなければならない。